

真姿の池湧水の長期水質変動とその要因

Long-term change in water quality at Masugatanoike spring water and its influencing factors

小倉 紀雄 [1]

Norio Ogura[1]

[1] なし

[1] none

東京都国分寺市にある真姿の池湧水について1975年から2002年までの28年間、継続された観測結果を解析し、水質の変動とその要因について考察を行った。

不規則な変動も見られたが、特に詳細な解析を行った1990年以降、水温は上昇し、硝酸イオン、塩化物イオンおよび揮発性有機塩素化合物（トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン）の濃度は減少する傾向が認められた。

硝酸イオン濃度はおよそ500 $\mu\text{mol/L}$ と高く、この原因として生活雑排水の地下浸透の影響を受けていることが推定された。塩化物イオンも同様に生活排水の地下浸透の影響を受けていると考えられた。湧水の涵養域と考えられる地域で下水道が整備されて来たが、これらの濃度は急激に減少せず、湧水の水質の応答はきわめてゆっくりで、時間的な遅れを伴うことが明らかにされた。

このように湧水の長期的な観測がきわめて重要であることが示唆された。

本報告は地下水学会誌（50巻1号、3 - 16、2008年）に掲載された内容に、最近の観測結果を追加したものである。